

# ジオパーク構想の推進過程における住民意識

## —鹿児島県三島村を事例に—

深見 聡\*・大久保 守\*\*

### The Movement of Residents in the Construction Process of the Geopark Concept: A Case Study of Mishima Village, Kagoshima Prefecture

Satoshi FUKAMI, Mamoru OKUBO

#### Abstract

The purpose of this research is to discuss the challenges as well as prospects for carrying out geopark activities that will become an integral part of the region by focusing on the awareness of local residents regarding the process of the transition of the geopark. In order to investigate the possibilities of the island region in particular, Mishima village in Kagoshima prefecture, which is the only place located within the island region as of September 2013, was selected as a research target among the regions currently aiming for the approval of a Japanese geopark. The study was conducted by questionnaire survey method through the distribution of inquiries to all households of Satsuma Iwo-jima, which will be the center of the geopark concept of Mishima village.

As a result the following three points were clarified.

- 1) Since it is essential that the significance of the geopark as well as regional vision to aim for is spread throughout the residents, the formation of a promotion system for this purpose is necessary.
- 2) It will become important for proactive work to take root in the region in order to lead to geopark activities by the local residents in the area.
- 3) To have proactive work by local residents to take root, the encouragement of rediscovering local resources is effective. For this, the continuation of careful discussions is required in the construction process of the geopark.

**Key Words** : Geopark, Geotourism, Mishima Village, Satsuma Iwo-jima, Awareness of Local Residents

#### 1. はじめに

##### 1.1. 研究の視角

全国の地方自治体では、長引く不況による基幹産業の衰退、人口減少や過疎地域の増加など多くの課題が表出している。地方の時代といわれて久しいものの、その実態はきわめて厳しいものがある（天野ほか、2011）。それに対して、地域資源を活用した活性化が注目され、その手段として観光の役割に期待が高まっている（加藤ほか、2003；深見、2007）。こうした現状の中で様々な地域で積極的に検討されているのがジオパークの取り組みである（宮原、2008）。

ジオパークとは景観として地形や地質などの地球

科学的な資源を有し、そのような資源の保全とその活用に努めている地域を指す（岩井ほか、2010）。日本国内のジオパークにはユネスコが支援する世界ジオパークネットワーク（GGN）による認定をうけた「世界ジオパーク」と世界ジオパーク認定を目指し、日本国内のジオパーク推進機関（日本ジオパークネットワーク；JGN）からの認定をうけた国内版の「日本ジオパーク」とがある。「ジオパーク」として名前を掲げることができるのはこのように認定を受けた地域のみである。ジオパークに認定されることでその地域は世界的な認知度の向上と観光客の誘致が期待できる。日本においてジオパークの認定がすすめられるようになってきた背景には「世界遺産」と同様に観光による活性化への期待がある（岩井ほか、2010；新名、2013）。

ここで重要になってくるのは地域住民の存在であ

\*長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科

\*\*扇精光株式会社

る。ジオパークにおける貴重な大地の遺産の保護に関しては、世界遺産条約のように法的な拘束力は存在していないため、その地域住民の意識と行動によるところが大きい(竹之内, 2011)。また、ジオパークでの「大地の遺産」の活用の主要な手段はそれらを見どころとする観光をおこなうことである。こういったジオパークにおける観光形態はジオツーリズムと呼ばれる。ジオパークを持続的な観光振興による地域づくりと結びつけるためには、ジオツーリズムの役割が重要であり(大野, 2011; 竹之内, 2011)、そのジオツーリズムを成功させるためには、地域の特性を知る地域住民の積極的な参画が必要不可欠となる。すなわち、ジオパークは地域住民が主役となる場であり、地域住民はジオパークの仕組みにおいて重要な要素である。

そのため、ジオパーク認定の際に重要視されるものの中に、地域住民にジオパークやジオツーリズムの考え方が浸透しているかということ、地域住民によるジオパークに関する活動が積極的にこなわれているかという点がある(本間, 2010)。

しかし、日本国内の場合、各地域においてジオパーク活動(ジオパーク認定に向けた活動)を推進するジオパーク事務局は行政内部に設置される場合が多い。そして、ジオパークは世界遺産と同様に、「外部」から高い評価を受けて認定されるため、行政が主体的に認定を目指す傾向があり、地域住民にジオパークやジオツーリズムの考えが根づいていないまま進められる傾向も懸念されている(深見, 2010)。すなわち、ジオパーク構想の推進にあたっては、その地域の行政と地域住民が一体となってジオパーク活動に取り組むことが必要である。

いくつかの先行研究において、行政と地域住民が一体となってジオパーク活動に取り組むためには、行政がジオパークやジオツーリズムの概念を地域住民に浸透させることが重要だと指摘されている。実際にジオパークを導入しようとしている様々な地域でそういった取り組みがなされている。

しかし、そのようなジオパークの推進過程においての先行研究の中で行政の意識や地域住民の意識に注目したものはほとんど知られていない。そのことは、この点に関して詳細な把握がないままであるということにつながる。深見(2010; 2013)もジオパークをとりまく地域住民をはじめとする意識の把握が不十分であることに言及しており、ジオパーク研究における重要な課題と言える。同時に、今後の日本国内の衰退した地域の活性化を支える可能性をもつジオパークという新たな仕組みがより発展するこ

とを考えた場合において避けては通れない課題である。

また、最近のジオパークに関する動向として、2013年9月7日~13日に韓国済州島にて開催されたアジア太平洋ジオパークネットワーク(APGN)2013シンポジウムにおいて、隠岐が世界ジオパーク認定を受けたことをはじめとし、2013年9月24日の第18回日本ジオパーク委員会においては、佐渡とおおいた姫島が日本ジオパークの認定をうけるなど、ジオパークが島嶼の地域振興策として期待され始めていることが分かる。多くの島嶼では急速な勢いで過疎が進んでおり(尤, 2011)、早急な対策が必要とされる状況を見ると、今後も隠岐などの例をうけて島嶼地域もジオパークを目指していくことが予想される。

## 1.2. 研究の目的と方法

そこで本研究は、島嶼地域における可能性を探るために、現在、日本ジオパークの認定を目指している地域(日本ジオパークネットワーク[JGN]の準会員:ジオパーク構想地)の中において2013年9月現在唯一の島嶼地域に位置する鹿児島県三島村を研究対象として取り上げる。そして、ジオパーク推進の過程における地域住民の意識に注目することで、地域に根ざしたジオパーク活動をおこなうための課題と展望を論じることを目的とする。

地域住民の意識の把握はアンケート調査によっておこなう。対象とした地域は三島村の中でも三島村ジオパーク構想を進めるなかで重要となる学術的拠点施設(鬼界カルデラ博物館)が建設されるなど、構想の具体的な動きが見られる薩摩硫黄島とした。アンケート調査は三島村役場の協力のもとに2013年9月7日から2013年9月30日の期間で配布調査法によりおこなった。

## 2. 研究対象地(薩摩硫黄島)の概要

鹿児島県鹿児島郡三島村は、有人三島(黒島・薩摩硫黄島・竹島)からなる地域にあたり(図1)、行政区域外に役場を置いていることがひとつの特徴といえる。人口326人、65歳以上の高齢者が45.1%を占める典型的な過疎自治体でもある(2013年4月現在)。島内には高校がなく、かつて操業していた硫黄岳での鉱業が休止(硫黄は昭和半ば、珪石は1990年代)したこともあり、とくに労働力人口の減少傾向が続いている。その打開策として、畜産業とともに観光振興に期待が向けられるようになった。その起点は、1974年に三島村の誘致で大手観光資本が旅館や飛

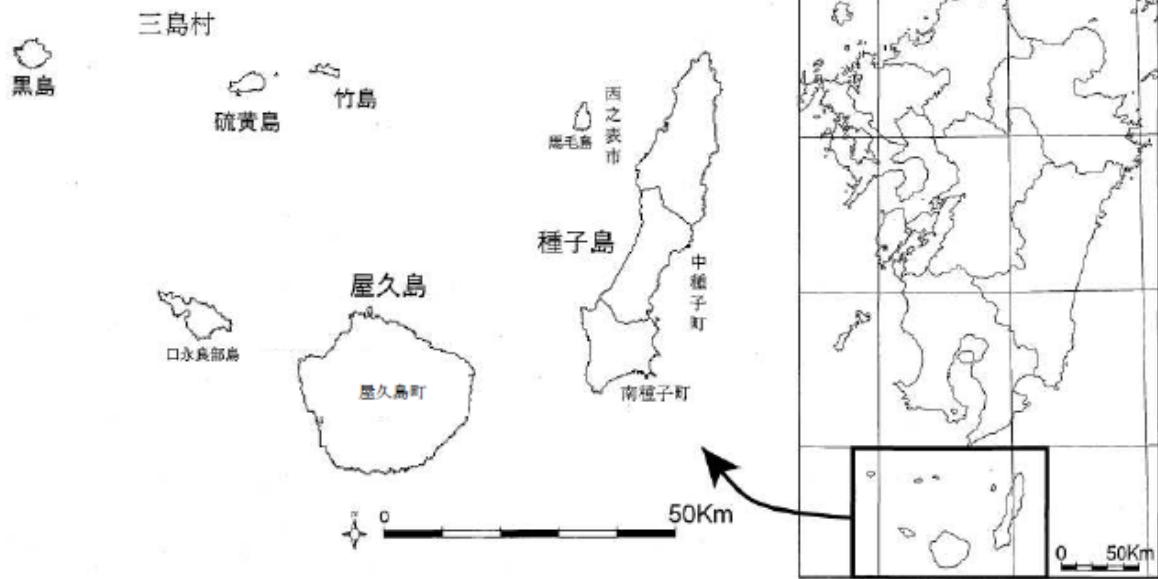


図2 三島村薩摩硫黄島の位置

Fukami(2014)より引用.



写真1 鬼界カルデラ博物館

2013年9月8日筆者が撮影.



写真2 モニターツアーでも人気の野天風呂・東温泉

2013年9月7日筆者が撮影.

行場を開業したことに求められる。亜熱帯海洋性気候による南国イメージを掲げ富裕層を主対象としたリゾート地づくりがすすんだが、経営不振により1982年に撤退した。現在、飛行場は日本初の村営飛行場として個人所有の小型飛行機を中心に利用されている。

三島村全体での年間観光客数は、この数年間は4千~7千人台で推移している。人数自体に極端な増減は見られないものの、最近ではIターン者をふくむ島民が着地型観光を指向した取り組みが注目される。その一つに、2012年5月に始まった「三島村ジオパーク構想」がある。硫黄島港近くの三島開発総合センター内には、本構想のコア施設として前述の「鬼界カルデラ博物館」が置かれ(写真1)、さらに『他に類のない手つかずの島、無垢の風景-三島村をジオパークへ』と題した本構想を主題とする初のパンフレット刊行、役場のジオパーク担当専門職員によるモニターツアー(硫黄を使った花火作りやシーカヤック体験など)が好評を博している(写真2)。

### 3. 薩摩硫黄島における地域住民の意識

アンケート(資料1)は三島村薩摩硫黄島における全67世帯(2013年8月現在)を対象とし、1世帯から1票の回答を求めた。その結果、45世帯から回答を得た(回収率67%)。本来ならば居住歴の長短や移住者と在来住民といった点への着目がなされる必要がある。しかし、薩摩硫黄島の現状は、世帯数の減少が続く隔絶小島嶼にあたり、今回の回答が「地域の声」を代表しているものとみなす妥当性を有し

ていると判断した。

以下にジオパークやジオツーリズムに関する住民意識のアンケート集計結果を報告する。

### 3.1. 回答者の属性

#### 3.1.1. 世代

回答者の世代は10代、20代がそれぞれ5人(11%)であり、30代、40代がそれぞれ6人(13%)、そして50代8人(18%)、60代7人(16%)、70代4人(9%)、80代3人(7%)で無回答が1人(2%)あった(図2)。

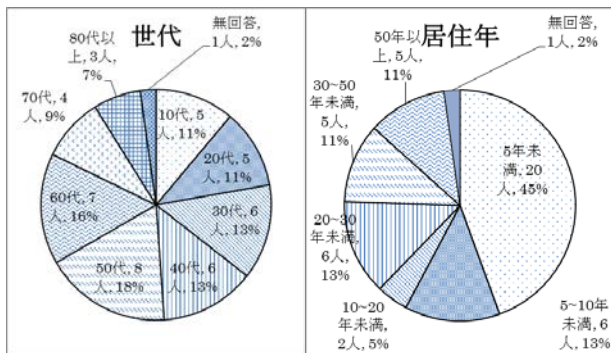


図2 回答者の世代

図3 回答者の居住年数

### 3.2. 単純集計結果

#### 3.2.1. 自地域の観光に対する認識

はじめに住民の薩摩硫黄島に対する認識を把握した。薩摩硫黄島は観光地としてにぎわっているかという質問に対して、「ある程度そう思う」17人(38%)、「どちらでもない」6人(13%)、「あまりそう思わない」18人(40%)、「無回答」4人(9%)であった(図6)。

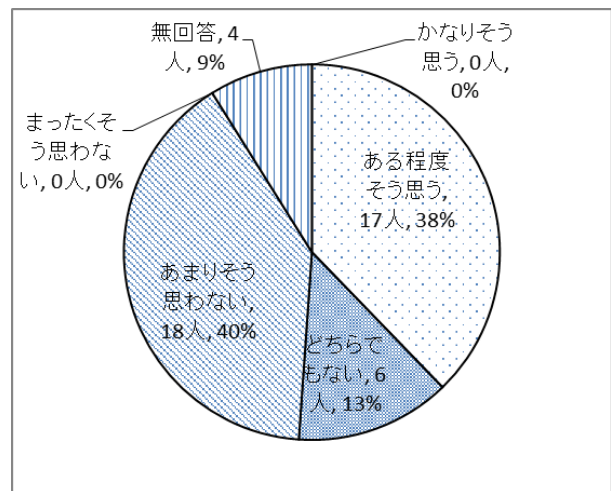


図6 薩摩硫黄島は観光地としてにぎわっているかについての回答

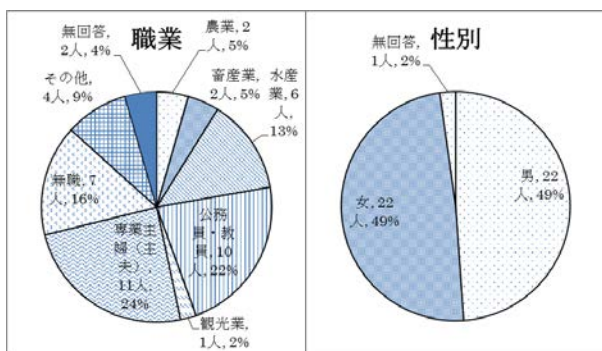
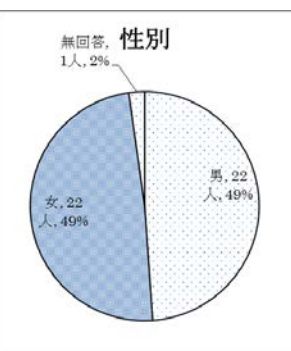


図4 回答者の職業

図5 回答者の性別



薩摩硫黄島での居住年数は「5年未満」が20人(45%)と半数近くを占め、「5~10年未満」が6人(13%)、「10~20年未満」が2人(5%)、「20~30年未満」が6人(13%)、「30~50年未満」が5人(11%)、「50年以上」が5人(11%)、無回答が1人(2%)となった(図3)。

職業は「農業」と「畜産業」がそれぞれ2人(5%)、「水産業」6人(13%)、「公務員・教員」10人(22%)、「観光業」1人(2%)、「専業主婦(主婦)」11人(24%)、「無職」7人(16%)、「その他」4人(9%)、「無回答」2人(4%)であった(図4)。その他の内訳は「パート」、「サービス業」である。

性別はそれぞれ22人(49%)であった(図5)。

地域の観光客の推移についての質問への回答は、「かなり増えた」2人(5%)、「ある程度増えた」11人(24%)、「変わらない」23人(51%)、「ある程度減った」1人(2%)、「かなり減った」1人(2%)、「無回答」7人(16%)であった(図7)。

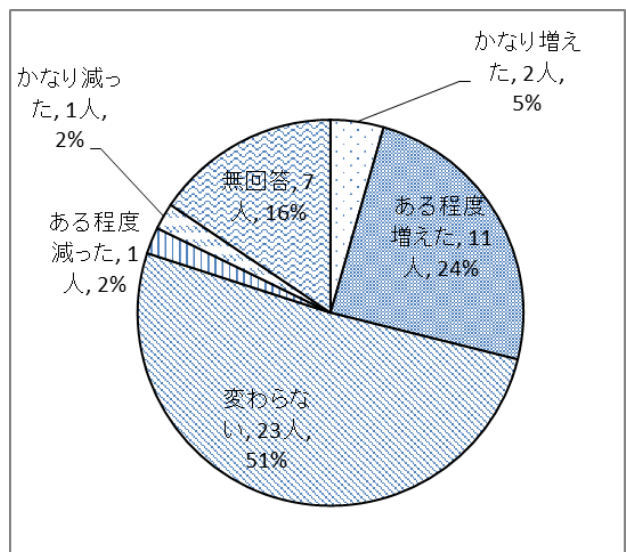


図7 薩摩硫黄島への観光客の推移についての回答

つぎに、薩摩硫黄島の地域資源に対する認識につ

いて26の資源を提示し<sup>1)</sup>、「観光地」としての見どころと思う場所(もの)について、「大地の恵み」を感じられる場所(もの)についてそれぞれ5つを選択してもらった。

すると、観光地として見どころと思う場所(もの)については「東温泉」が42人(93%)で最も多く、次に「八朔太鼓踊り」20人(44%)、以降は「恋人岬公園」19人(42%)、「俊寛堂」17人(38%)、「みしまジャンベスクール」16人(36%)、「安徳天皇墓所」15人(33%)、「硫黄岳」14人(31%)、「平家城跡」11人(24%)、「硫黄岳展望台」10人(22%)、「硫黄島盆踊り(含柱松)」8人(18%)、「俊寛像」7人(16%)、「冒険ランド」「熊野神社」「魚介類」が共通して6人(13%)、「坂本温泉」「その他:岬橋」2人(4%)、大浦港1人(2%)、海の色1人(2%)、4人(9%)、「郷土料理」3人(7%)、「城ヶ原牧場」「榎(くし)の局墓」「黒木御所跡」「応永の墓」「稲村岳」2人(4%)、「九月踊り」1人(2%)、であった(図8)。

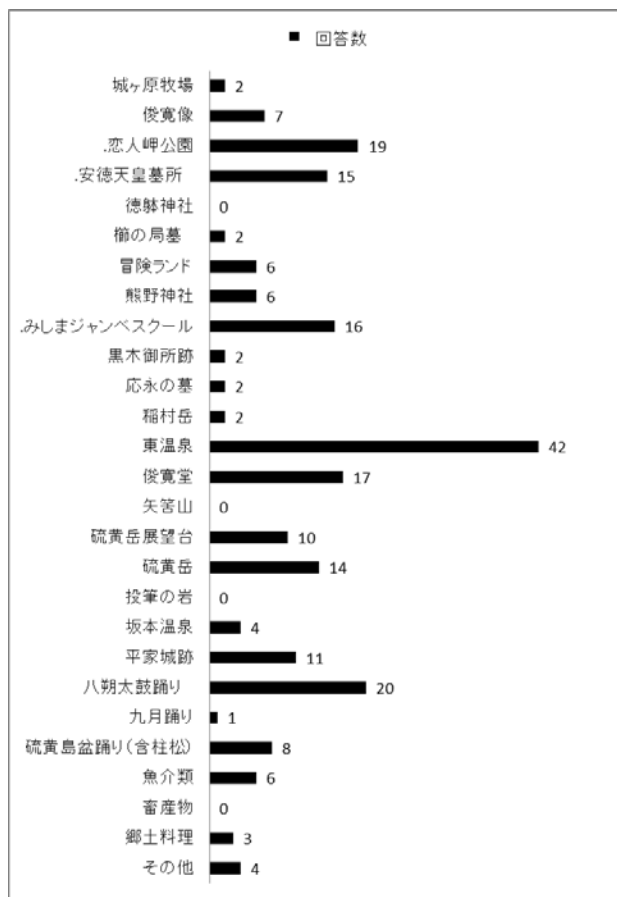


図8 観光地として見どころと思う場所(もの)に対する回答

「大地の恵み」を感じられる場所(もの)に関しては、「東温泉」が42人(93%)で「硫黄岳」34人(76%)、「坂本温泉」18人(40%)、「稲村岳」17人(38%)、「恋人岬公園」16人(36%)、以降、「硫黄岳展望台」15人(33%)、「平家城跡」14人(31%)、「魚介類」11(24%)、「矢筈山」10人(22%)、「城ヶ原牧場」8人(20%)、「冒険ランド」「熊野神社」「郷土料理」4人(9%)、その他:港の赤い海1人(2%)、穴の浜温泉1人(2%)、新島、島の外観1人(2%)、3人(7%)、「みしまジャンベスクール」「俊寛堂」「硫黄島盆踊り(含柱松)」「畜産物」2人(4%)、「俊寛像」「安徳天皇墓所」1人(2%)であった(図9)。

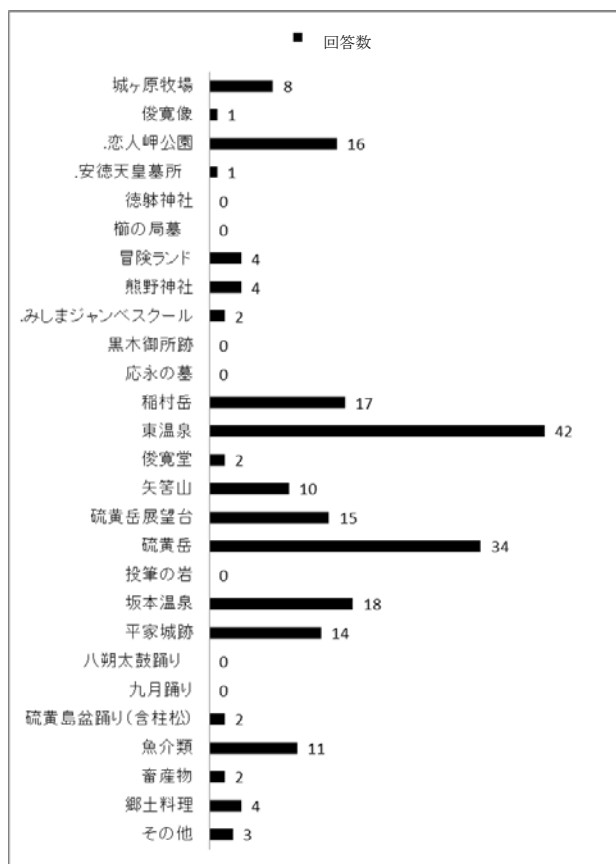


図9 「大地の恵み」を感じられる場所(もの)に対する回答

### 3.2.2. ジオパークやジオツーリズムに関する意識

ジオパークに関連した回答について、まずは薩摩硫黄島における地域住民のジオパークやジオツーリズムについての認知の度合いと興味がどれほどあるかについて把握を試みた。

はじめに、ジオパークという言葉を知ったことがあるかという質問に対して、「よく聞く」が12人(27%)、「ときどき聞く」が19人(44%)、「聞いたことがある気がする」8人(18%)、「聞いたことが

ない」4人(9%)、無回答が2人(4%)であった(図10)。

これについて、「よく聞く」「ときどき聞く」と回答した者にどこで聞いたのかをたずねた。複数回答としたところ、その結果は、「地域の広報誌」が14人(45%)、「新聞・テレビ」が回答数23人(74%)、「道路などに設置されている看板・のぼり旗」が回答数2人(6%)、「インターネット」が回答数7人(23%)、「その他」回答数1人(3%)であった(図11)。ここでの「その他」の回答は、「東川隆太郎氏の講演」であった。

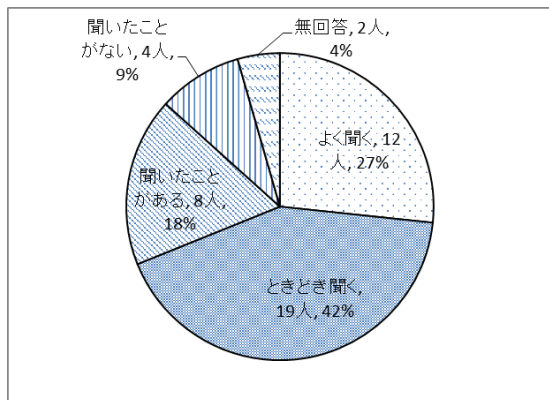


図10 ジオパークという言葉を知っているかに対する回答

また、ジオパークとはどういうものか知っているかという質問に対する回答は「よく知っていた」が2人(4%)、「知っていた」7人(16%)、「なんとなく知っていた」25人(56%)、「知らない」9人(20%)、無回答が2人(4%)であった(図12)。

次にジオツーリズムという言葉を知っているかについてである。この質問に対する回答は、「よく聞く」2人(5%)、「ときどき聞く」8人(18%)、「聞いたことがある気がする」14人(31%)、「聞いたことがない」20人(44%)、「無回答」1人(2%)であった(図13)。

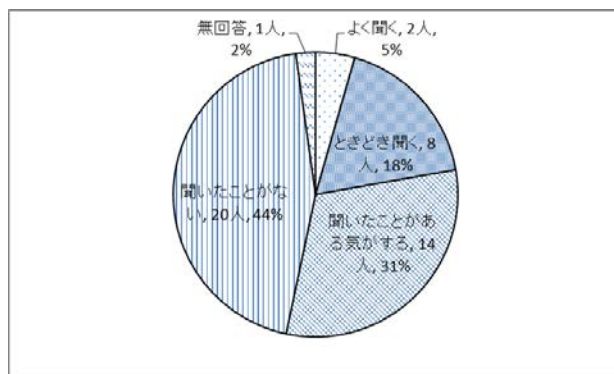


図13 ジオツーリズムという言葉を知っているかに対する回答

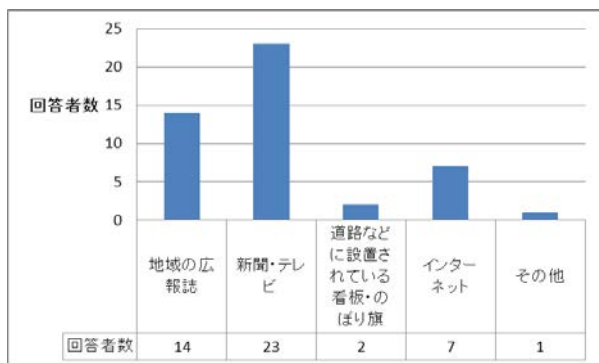


図11 ジオパークという言葉を知ったかに対する回答

上記の質問でジオツーリズムという言葉を知っているか「よく聞く」「ときどき聞く」と回答した者に対してどこで聞いたかという質問をした。この回答は複数回答とした。その結果は、「地域の広報誌」5人(36%)、「新聞・テレビ」9人(64%)、「インターネット」2人(14%)、「その他」1人(7%)であった(図14)。ここでの「その他」の回答は「東川隆太郎氏の講演」というものであった。

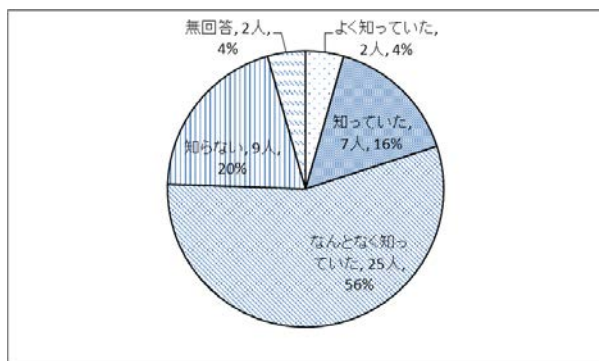


図12 ジオパークとはどういうものか知っているかに対する回答

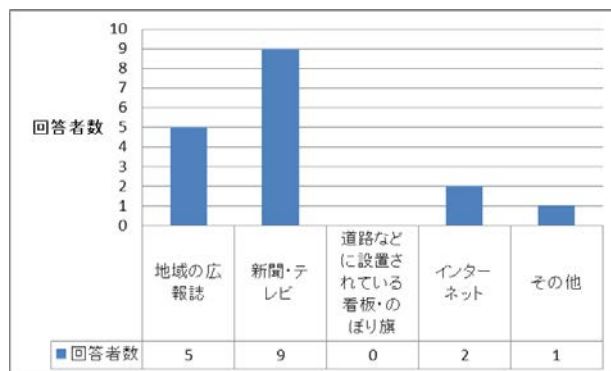


図14 ジオツーリズムという言葉を知ったかに対する回答

次は、三島村においてジオパーク認定を目指していることを知っているかについての回答である。この結果は「知っていた」28人(62%)、「知らなかった」16人(36%)、無回答が1人(2%)であった(図15)。

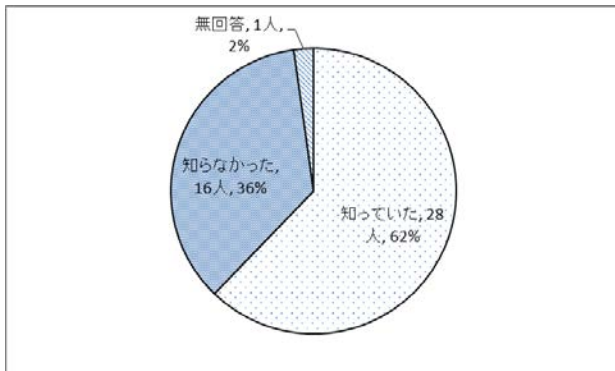


図15 三島村がジオパーク認定を目指していることを知っているかに対する回答

次にジオパークについての興味に関する意識である。これに関しては、「かなり興味がある」5人(11%)、「ある程度興味がある」15人(33%)、「どちらでもない」17人(38%)、「あまり興味はない」7人(16%)、無回答1人(2%)であった(図16)。

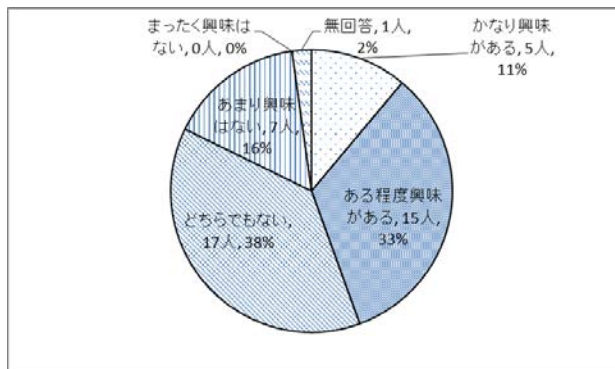


図16 ジオパークについて興味があるかに対する回答

### 3.2.3. ジオパークやジオツーリズムによる地域の活性化

本項では、ジオパークやジオツーリズムで地域が活性化されるかの意識をみていく。

三島村がジオパークに認定されることで地域は活性化すると思うかという質問に対して、その回答は「かなりそう思う」6人(13%)、「ある程度そう思う」23人(51%)、「どちらでもない」5人(11%)、「あまりそう思わない」8人(18%)、無回答3人(7%)であった(図17)。

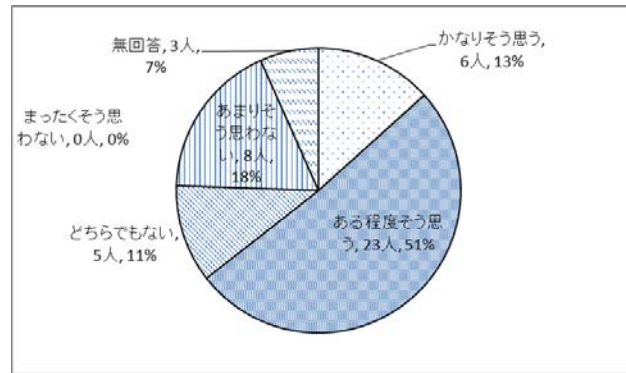


図17 三島村がジオパーク認定されることで地域が活性化すると思うかに対する回答

ジオツーリズムを地域で積極的に取り組むことは地域の活性化につながると思うかという質問に対する回答は、「かなりそう思う」7人(16%)、「ある程度そう思う」22人(49%)、「どちらでもない」6人(13%)、「あまりそう思わない」6人(13%)、「無回答」4人(9%)であった(図18)。

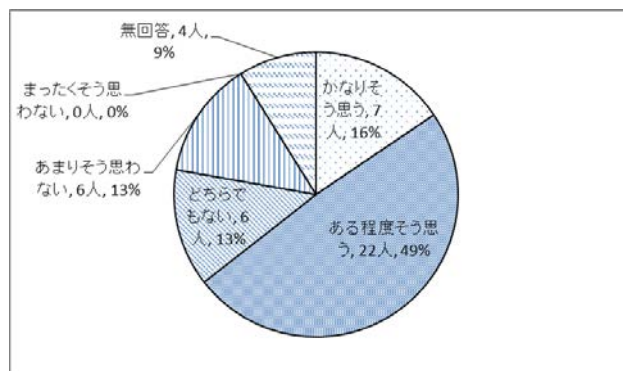


図18 ジオツーリズムを薩摩硫黄島で積極的に取り組むことは地域の活性化につながると思うかに対する回答

### 3.2.4. ジオパークやジオツーリズムによる具体的な効果に関する意識

先行研究やジオパークの理念において言及されている、ジオパーク認定を受けることや、認定を目指す段階で期待される効果を以下のように7点示した。

- ① 「ジオパーク」という名前を掲げることで観光客が今までより興味を示してくれる。
- ② 今までの観光スポットに「大地の恵み」という視点が加わることで、観光地として魅力が増す。
- ③ 地域住民が主体となり、「大地の恵み」というテーマのもとに観光に関する事業を進められる。
- ④ 「大地の遺産」を学べる場所ということで、小・中・高校生などの若者が多く訪れるようになる。

- ⑤ 観光資源の保全と利用を同時におこなっていくので、持続的に地域の魅力を活用できる。
- ⑥ 過疎や離島地域での観光の仕組みとして有効である。
- ⑦ 地域住民のガイドが活躍できる場なので、ガイドとして利益を得ることができる。

ここでは、これらの項目について地域住民がどのような意識をもっているのかを把握した。

### 3.2.4.1. ①に関する意識

「かなりそう思う」7人(16%)、「まあまあそう思う」21人(47%)、「どちらともいえない」11人(24%)、「あまりそう思わない」5人(11%)、無回答が1人(2%)であった(図19)。

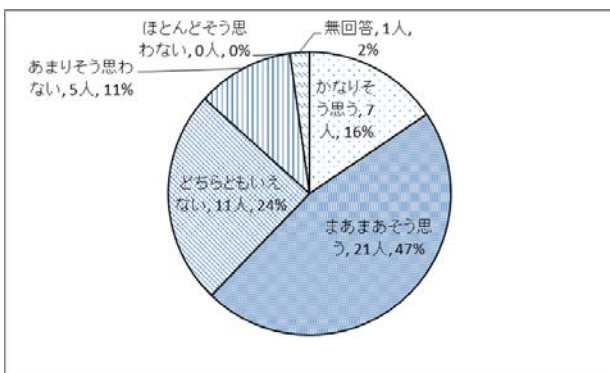


図19 ①に関する意識の回答

### 3.2.4.2. ②に関する意識

「かなりそう思う」6人(14%)、「まあまあそう思う」23人(51%)、「どちらともいえない」10人(22%)、「あまりそう思わない」5人(11%)、無回答1人(2%)であった(図20)。

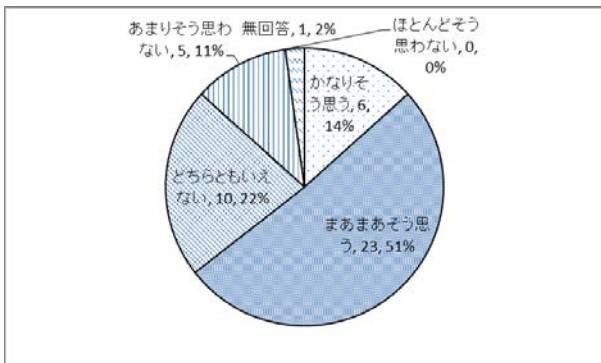


図20 ②に関する意識の回答

### 3.2.4.3. ③に関する意識

「かなりそう思う」3人(7%)、「まあまあそう思う」17人(38%)、「どちらともいえない」16人(36%)、「あまりそう思わない」6人(13%)、「ほとんどそう思わない」2人(4%)、無回答1人(2%)という結果となった(図21)。

う思わない」2人(4%)、無回答1人(2%)という結果となった(図21)。

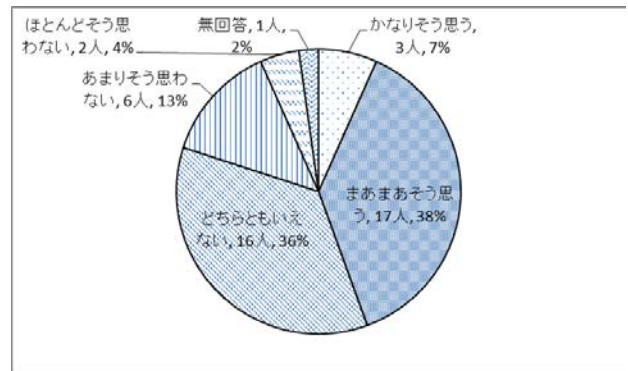


図21 ③に関する意識の回答

### 3.2.4.4. ④に関する意識

「かなりそう思う」4人(9%)、「まあまあそう思う」19人(42%)、「どちらともいえない」13人(29%)、「あまりそう思わない」8人(18%)、無回答1人(2%)という結果となった(図22)。

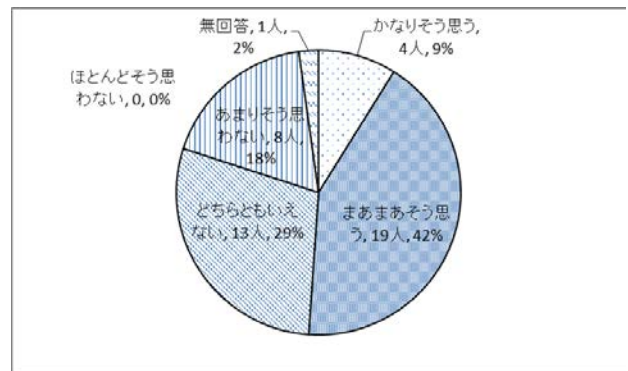


図22 ④に関する意識の回答

### 3.2.4.5. ⑤に関する意識

「かなりそう思う」3人(7%)、「まあまあそう思う」24人(53%)、「どちらともいえない」13人(29%)、「あまりそう思わない」4人(9%)、無回答1人(2%)

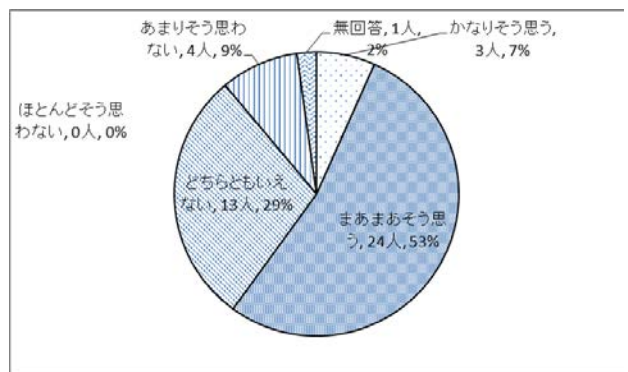


図23 ⑤に関する意識の回答



という結果となった（図 23）。

#### 3.2.4.6. ⑥に関する意識

「かなりそう思う」3人（7%）、「まあまあそう思う」27人（60%）、「どちらともいえない」7人（15%）、「あまりそう思わない」7人（16%）、無回答1人（2%）であった（図 24）。

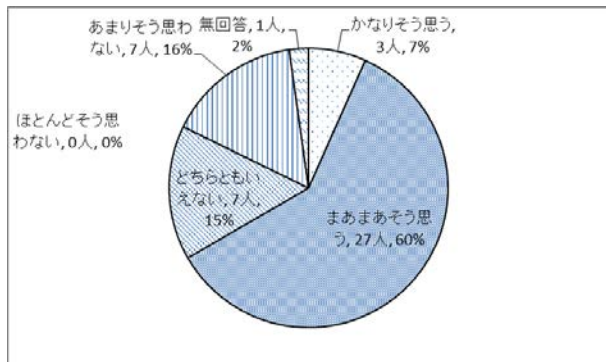


図 24 ⑥に対する意識の回答

#### 3.2.4.7. ⑦に関する意識

「かなりそう思う」6人（14%）、「まあまあそう思う」18人（40%）、「どちらともいえない」14人（31%）、「あまりそう思わない」6人（13%）、無回答1人（2%）となった（図 25）。

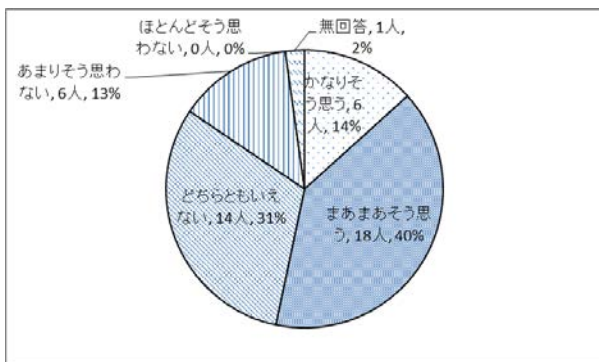


図 25 ⑦に対する意識の回答

### 3.3. 相関分析結果

以上のアンケートの結果から、回答の相関の分析にあたった。相関はクロス集計した結果をもとに $\chi^2$ 検定をおこない、2つの要素の相関の危険率 $\alpha$ が5%未満（ $0.05 > \alpha$ ）のものを有効として示した。この結果、性別や世代、居住年などの属性とジオパークやジオツーリズムに対する回答との間に相関はみられなかった。

一方、「ジオパークという言葉を知ったことがあるか」という問いについて、以下の3つに対して正の相関がみられた。

- ・「ジオパークがどのようなものか知っているか」

（ $\chi^2=22.74$ , 自由度 9,  $0.01 > \alpha$ ）

- ・「三島村がジオパーク認定を目指していることを知っているか」（ $\chi^2=10.81$ , 自由度 3,  $0.05 > \alpha > 0.01$ ）
- ・「ジオツーリズムという言葉を知ったことがあるか」（ $\chi^2=17.63$ , 自由度 9,  $0.05 > \alpha > 0.01$ ）

すなわち、「ジオパークという言葉を知ったことがあるか」という問いに対して「ときどき聞く」や「よく聞く」と答えた者は「ジオパークがどのようなものか知っているか」という問いに対して「知っている」「よく知っている」と回答する傾向にある。また「三島村がジオパーク認定を目指していることを知っているか」という問いに対して「知っている」という回答をする傾向にあった。また「ジオツーリズムという言葉を知ったことがあるか」という問いに対して「ときどき聞く」「よく聞く」と回答する傾向がみられた。

さらに、「ジオパーク認定されることで地域が活性化すると思うか」という問いに対して肯定的な回答をした場合、これら5つの問いにも肯定的な意識（正の相関）を抱いていることがうかがえる。

- ・「ジオツーリズムを積極的に取り組むことで地域が活性化する」（ $\chi^2=36.88$ , 自由度 16,  $0.01 > \alpha$ ）
- ・「ジオパークという名前を掲げることで観光客がいままでより興味を示してくれる」（ $\chi^2=33.03$ , 自由度 12,  $0.01 > \alpha$ ）
- ・「今までの観光スポットが“大地の恵み”というテーマが加えられるので、観光地の魅力が増す。」（ $\chi^2=21.75$ , 自由度 12,  $0.05 > \alpha > 0.01$ ）
- ・「観光資源の保存と利用を同時におこなっていくので、長期的に観光に関する事業を進めていける。」（ $\chi^2=23.81$ , 自由度 12,  $0.05 > \alpha > 0.01$ ）
- ・「地域住民が自分たちで地域の魅力を見つけ、それを訪れる人達に伝えることができる。」（ $\chi^2=25.6$ , 自由度 12,  $0.05 > \alpha > 0.01$ ）

### 3.4. 自由記述結果

最後の設問として、ジオパークやジオツーリズムに関して自由記述を求めた。その回答を以下に示す。ここでは、KJ法により、ジオパークに対して肯定的なもの、否定的なもの、その他の課題を挙げているものの3つに区分できた。

#### 3.4.1. 肯定的な内容

- ・「島をほこりに思う子どもを育てるために、とても有効だと思います。協力していきます。」（50歳代、男性、公務員・教員、居住5年未満）
- ・「ジオパークで三島村との交流が深まるといい。」（10代、男、その他、5年未満）

#### 3.4.2. 否定的な内容

・「住民の中には、この事業でうるおうのは、観光に携わる民宿の人だけだろうという意見を聞きます。私たちには関係ないという感じ。」(30代、女、公務員・教員、5年未満)

・「経済効果を期待できない。」(60代、男、その他：サービス業、20~30年)

### 3.4.3. その他の課題を提示した内容

ここでは、以下の10件の回答を得た。

・「こちらに住んで数年になります。最大のネックは「交通」です。週に2~3便なので、宿泊を考えたりすると観光旅行は厳しいです。週末に合わないこともあり悪天候で欠航もよくあります。高速船の就航などが可能ならば、ジオパーク推進も意味のあるものになるはずです。」(40代、男、5年未満)

・「「また来てみたい」と思えるような施設や環境を整備する必要がある。」(50代、男、公務員・教員、5年未満)

・「住民が変わらなければなにかかわらない。」(30代、男、公務員・教員、5年未満)

・「地元の方たちと一体となって進めていくことが大前提になると思います。硫黄岳登山道の整備、その前に入山許可が必要ですね。」(20代、女、観光業、5年未満)

・「ジオツーリズムが「大地の恵み」を活かす観光ということを初めて知った。世界的な取組のジオパークに認定される前に、もっと先にすべきことがあるのではないかと？ゴミの問題など、もっと村が一体となり観光を受け入れる体制を作ってから、ジオパーク認定というステップに進めるのではないかと思います。」(30代、女、専業主婦、5年未満)

・「自然を活かした見どころもいろいろありますが、離島であること、欠航も多いこと等ハンデではないでしょうか。」(50代、女、無職、5年未満)

・「ジオツーリズムはとても素晴らしい試みだと思います。成功させるためには、自然を守り、持続的に活用すること。住民の理解、自然との付き合いかたが大切だと思います。現在、投棄しているゴミもきちんと処分する必要があると思います。」(30代、女、畜産業、5年未満)

・「「大地の恵み」を活かした場所の絞り込みとポイント(PRポイント)を明確にして観光客受入体制を作っていく必要がある。」(60代、男、公務員・教員、5年未満)

・「坂本温泉や港などのゴミをきれいにしたら、もっと良いと思う。住民がやることで、ごみ処理への関心も高まるので。離島観光に電動自転車はかせないと思います。」(20代、女、農業、10~20年)

・「無駄な開発をおこなわない。現状を見てもらう。」

(70代、男、水産業、30~50年)

## 4. 考察

本稿では、三島村薩摩硫黄島において地域住民を対象としたアンケート調査をおこない、ジオパークやジオツーリズムに関する意識の把握にあたった。

ジオパークという言葉の認知度はその濃淡はあるにしても9割ほどであり、地域の広報誌や新聞・テレビで目にしたというものが多かった。また、ジオパークがどういうものかについては漠然と知っている者が6割ほどと多く、確実に知っているという者は2割ほどであった。ジオツーリズムという言葉についての認知は、漠然と聞いたことがあるという者が3割で、確実に聞いたことがある者が2割ほどとジオパークという言葉の認知と比べては低い結果となった。ここでも聞いたことがある者は主に地域の広報誌や新聞・テレビでという回答が多かった。また三島村がジオパーク認定を目指していることへの認知は約6割となった。

また、これらの結果の相関分析から、ジオパークという言葉に対しての認知が高い者は、ジオパークとはどういうものか知っており、ジオツーリズムに対しての言葉の認知も高く、三島村がジオパーク認定を目指していることも認知しているという傾向がみられた。ジオパークに対する興味については、どちらでもないと答える者が多く、興味があると示した者は少数にとどまった。

ジオパークやジオツーリズムによる地域の活性化については、肯定的な者が7割近くに達した。これに関しては、相関分析の結果から「「ジオパーク」という名前を掲げることで観光客が今までより興味を示してくれる。」「今までの観光スポットに「大地の恵み」という視点が加わることで、観光地として魅力が増す。」「観光資源の保全と利用を同時におこなっていくので、持続的に地域の魅力を活用できる。」「過疎や離島地域での観光の仕組みとして有効である。」といった肯定的な意識が影響しているということが示唆される。

また、ここでいう地域資源の再発見に関してはジオストーリーの構築や普及の場面にも大きな役割を果たす。ジオストーリーとは、「大地の遺産」を軸として自然環境と人間環境の相互関係を明確にする物語である。3.2.1.の地域資源に対する住民の地域資源に対する意識において、「観光としての見どころとなる資源」と「大地の恵み」を感じられる資源」の回答に差異があったが、ジオストーリーの構築と普及をとおして、現在は観光資源としての認識はなされていない「大地の恵み」と認識されている対象を観

光資源へと活かしていく可能性や、その逆に「大地の恵み」として認識されていない観光資源を、「大地の恵み」と関連づけて活かしていく可能性を引き出す工夫が求められる（図 26）。

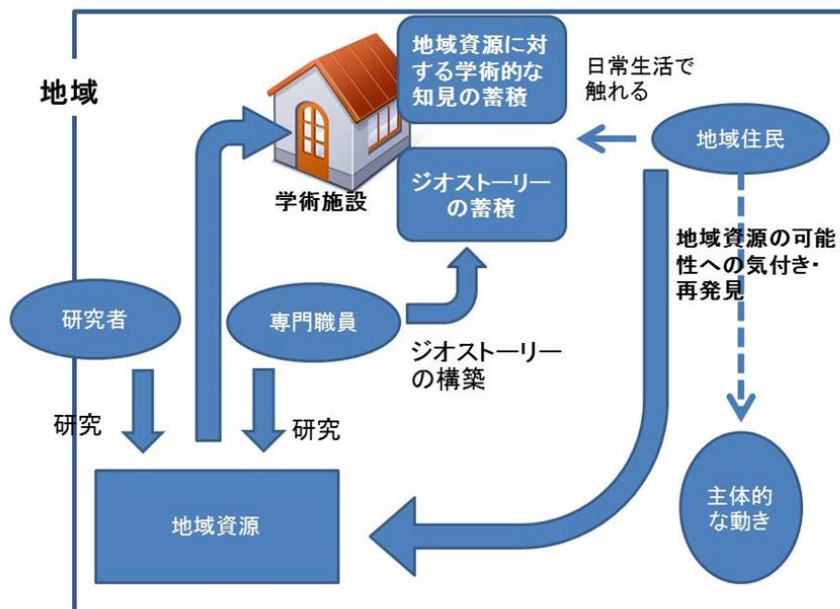


図 26 ジオパーク構想の推進と住民意識の醸成モデル  
注：筆者作成。

また、自由記述結果からは、ジオパークを目指すにあたってゴミや交通の問題、施設の整備の課題があると意識の存在がわかった。そして地域の課題として住民の間で意識の相違が存在する事実が明らかになった。

こういった三島村の住民意識の現状から、ジオパーク構想の推進過程において、地域住民の意識醸成を図るには、①ジオパークの意義や目指す地域像を明確に住民の間に普及させることが重要であるため、その点に傾注した推進体制づくりが求められること、②地域において地域住民によるジオパーク活動につながるような主体的な活動が地域に根づいていることが重要になることが挙げられる。合わせて、③地域住民による主体的な活動を根づかせるには、地域資源への気づき・再発見を促すことが有効であり、④当該地域の資源をもとから熟知しており、専門職員として活躍できる人材が存在することは、ジオパーク推進の過程においてとくに不可欠であるといえる。住民の地域資源への再発見に関して、それを促す役割を果たすものとしてジオストーリーが注目される。ジオストーリーは住民へのジオパークの意義の普及を促す役割をもつことから、その構築過程は慎重な議論の蓄積が求められる。

薩摩硫黄島をふくむ三島村ジオパーク構想地において、認定にむけたイベント等の具体的な取り組みがみられるようになったのは、2013年10月、三島村役場に地球科学専門職員が着任して以降のことである。そのため、本稿では他のジオパーク地域との比較をおこなうまでの状況になかったのも事実である。しかし、ここまでみてきたように、薩摩硫黄島の住民はもとより、自治体や外部の支援者の期待は高い（Fukami, 2014）。それだけに、現在展開されつつある活動への評価やマネジメントの指針を探ることで問題点は改善に向かうと期待される。

## 5. おわりに

GGN にもとづくジオパークの仕組みは日本国内には 2008 年に導入され、これからさらに定着化していくと思われる。そのために、日本におけるジオパークのあり方に関する議論が蓄積され、今後ジオパークが、衰退した地域の活性化を支える仕組みとして高い認知度を獲得できるかの試金石にある。

ここで明らかになったジオパーク推進過程の課題を克服することがジオパーク認定地の増加にもつながるであろう。そして、国内の事例の蓄積やジオパーク地域同士のネットワークが充実していくことにより、日本におけるジオパークの役割がさらに高まっていくことが期待される。

三島村は、2015年3月に、日本ジオパーク認定の申請をおこなうと発表した<sup>2)</sup>。今後、ジオパーク推進過程に住民意識の現状と変容にどのような影響があるのかという点を含め、さらに経年的変化を把握していくところに、本研究の意義をさらに深めていく余地がある。記して今後の課題としたい。

## 付記

本稿は、既発表論文が査読により修正し新たに掲載されるものである。

鹿児島県三島村役場の日高郷土村長（当時）、大山秀人氏、大岩根尚氏、同村役場薩摩硫黄島出張所の樋渡俊一氏、アンケート調査にご協力いただいた薩摩硫黄島の住民各位に厚くお礼申し上げます。

本研究をすすめるにあたり、科学研究費補助金・若手研究(B)「担い手のライフヒストリーからみたジオパークの観光化プロセスに関する研究」（課題番号：25870520）を使用した。また、本稿の骨子は、日

本地理学会 2014 年春季大会において発表した。

注

1)三島村ホームページ

http://mishimamura.com/category/summary/ (2013 年 8 月 26 日閲覧) において薩摩硫黄島の見どころとして挙げてあったもの 23 の場所 (物) に「魚介類」「畜産物」「郷土料理」を加えた。

2) 南日本新聞 2014 年 3 月 21 日掲載記事による。

参考文献

天野一男・松原典孝・細井 淳・本田尚正・小峯慎司・伊藤太久(2011): 茨城県北ジオパーク構想での茨城大学の活動-ジオパーク推進における大学の活動例-. 地学雑誌, 120(5), pp.786-802.

岩井國臣・永野正展・柳井修一・佐藤英雄(2010): 日本ジオパークの構想と地域コミュニティ. 国土と政策, 29, pp.4-18.

大野希一(2011): 大地の遺産を用いた地域振興-島原半島ジオパークにおけるジオストーリーの例-. 地学雑誌, 120(5), pp.834-845.

加藤麻理子・下村彰男・小野良平・熊谷 洋一(2003): 地域住民による観光ボランティアガイド活動の実態と動向に関する研究. ランドスケープ研究, 66(5), pp.799-802.

竹之内耕(2011): 糸魚川ジオパークと地域振興. 地学雑誌, 120(5), pp.819-833.

新名阿津子(2013): ジオパークとジオツーリズム. 鳥取地学会誌, 17, pp.3-10.

深見聡(2007): 『地域コミュニティ再生とエコミュージアム-協働社会のまちづくり論-』. 青山社.

深見聡(2010): ジオパークとジオツーリズムの成立に関する一考察. 地域総合研究, 38(1), pp.63-72.

深見聡(2013): ジオパークとジオツーリズムの展望-日本と中国の事例から-. 人文地理, 65(5), pp.58-70.

本間岳史(2010): 日本地質学発祥の地"秩父とジオパーク -ジオサイトとジオツーリズムに関する一試案-. 埼玉県立自然の博物館研究報告, 4, pp.1-24.

宮原育子(2008): 生活者の視点をジオパークへ--地域観光振興の立場から. 地理 53(9), pp.50-54

尤 銘煌(2011): 東海地域における通過儀礼の特徴・変遷-離島の少子高齢・過疎化を中心として-. 山形大学紀要(人文科学), 17(2), pp.190-172.

Fukami,Satoshi(2014): Potential Construction of a Geopark in Small Islands: Preliminary Qualitative Action Research on the Geopark Concept in the Mishima Village, Kagoshima Prefecture, Japan, Northeast Asia Tourism Research, 10(1), pp.289-308.

資料1 アンケート調査用紙

**1. 観光地としての三島村硫黄島についておたずねします。**

1. 三島村硫黄島は観光地として栄えていると思いますか。

ア,かなりそう思う イ,ある程度そう思う ウ,どちらでもない  
エ,あまりそう思わない オ,まったくそう思わない

2. 三島村硫黄島の観光地としての見どころはなんだと思いますか。以下から5つ選んで丸をつけてください。

ア,城ヶ原牧場 イ,俊寛像 ウ,恋入峠公園 エ,安徳天皇墓所  
オ,徳軒神社 カ,樹の島墓 キ,冒険ランド ク,熊野神社  
ケ,みしまジャンベスクール コ,黒木御所跡 サ,応永の墓 シ,稲村岳  
ス,東温泉 セ,俊寛堂 ソ,矢筈山 タ,三ツ岳 チ,硫黄島展望台  
ツ,硫黄岳 テ,投筆の岩 ト,坂本温泉 ナ,平家城跡 ニ,穴之浜温泉  
ヌ,八潮太鼓踊り ネ,九月踊り ノ,天授の板碑 ハ,硫黄島盆踊り(合柱松)  
ヒ,魚介類 フ,畜産物 ヘ,郷土料理 ホ,その他( )

3. 三島村硫黄島をおとずれる観光客は以前と比べて増えたと思いますか。

ア,かなり増えた イ,増えた ウ,変わらない エ,減った オ,かなり減った

**2. ジオパーク、ジオツーリズムについておたずねします。**

\*ジオパーク (Geopark:地質公園) とは、地球科学的に貴重な資源が背景にあり形成された景勝地や火山・温泉といった「大地の恵み」を活かす地域振興の仕組みのことをいいます。ユネスコが支援する世界的な取り組みです。

\*ジオツーリズムとは、ジオパーク内で「大地の恵み」を活かしておこなわれる観光のことをいいます。

1. 三島村硫黄島において「大地の恵み」を感じられると思う場所 (物) といった時、何が思い浮かびますか。以下から5つ選んで丸をつけてください。

ア,城ヶ原牧場 イ,俊寛像 ウ,恋入峠公園 エ,安徳天皇墓所  
オ,徳軒神社 カ,樹の島墓 キ,冒険ランド ク,熊野神社  
ケ,みしまジャンベスクール コ,黒木御所跡 サ,応永の墓 シ,稲村岳  
ス,東温泉 セ,俊寛堂 ソ,矢筈山 タ,三ツ岳 チ,硫黄島展望台  
ツ,硫黄岳 テ,投筆の岩 ト,坂本温泉 ナ,平家城跡 ニ,穴之浜温泉  
ヌ,八潮太鼓踊り ネ,九月踊り ノ,天授の板碑 ハ,硫黄島盆踊り(合柱松)  
ヒ,魚介類 フ,畜産物 ヘ,郷土料理 ホ,その他( )

2. あなたは、「ジオパーク」という言葉を知っていますか？

- ア.よく聞く
- イ.ときどき聞く
- ウ.聞いたことがある気がする
- エ.聞いたことがない

SQ「アまたはイ」と回答した方に伺います。それはどこで聞きましたか。あてはまるものすべてに○印を付けてください。

- a.地域の広報誌
- b.新聞・テレビ
- c.道路などに設置されている看板・のぼり旗
- d.インターネット
- e.その他 ( )

3. 「ジオパーク」とは何か知っていましたか？

- ア.よく知っていた
- イ.知っていた
- ウ.なんとなく知っていた
- エ.知らない

4. 「ジオパーク」について興味がありますか。

- ア.かなり興味がある
- イ.ある程度興味がある
- ウ.どちらでもない
- エ.あまり興味はない
- オ.まったく興味はない

5. 三島村はジオパーク地域への認定を目指しています。このことを知っていましたか。

- ア.知っていた
- イ.知らなかった

6. 三島村がジオパーク認定されることで地域は活性化すると思いますか。

- ア.かなりそう思う
- イ.ある程度そう思う
- ウ.どちらでもない
- エ.あまりそう思わない
- オ.まったくそう思わない

7. ジオパークに認定されるためには、ジオパークでの観光形態である「ジオツーリズム」を地域で積極的に発展させていく必要があります。(ジオツーリズムとは、「大地の恵み」をテーマとしておこなう観光のことをいいます。)

ジオツーリズムという言葉を知っていますか。

- ア.よく聞く
- イ.ときどき聞く
- ウ.聞いたことがある気がする
- エ.聞いたことがない

SQ「アまたはイ」と回答した方に伺います。それはどこで聞きましたか。あてはまるものすべてに○印を付けてください。

- a.地域の広報誌
- b.新聞・テレビ
- c.道路などに設置されている看板・のぼり旗
- d.インターネット
- e.その他 ( )

8. 「ジオツーリズム」を三島村磯崎島で積極的におこなっていくことは、地域の活性化につながると考えますか？

- ア.かなりそう思う
- イ.ある程度そう思う
- ウ.どちらでもない
- エ.あまりそう思わない
- オ.まったくそう思わない

9. 以下のA~Gの項目について当てはまる数字の1つに○をつけてください。

	かなり そう思う	まあまあ そう思う	どちらと もいえない	あまり そう思わ ない	ほとんど そう思わ ない
A. 「ジオパーク」という名前を掲げることで観光客がいままでより興味を示してくれる。	5	4	3	2	1
B. 今までの観光スポットが「大地の恵み」というテーマが加えられるので、観光地の魅力が増す。	5	4	3	2	1
C. 地域住民が主体となり、「大地の恵み」というテーマのもとに観光に関する事業を進められる。	5	4	3	2	1
D. 「大地の遺産」を学ぶ場所ということで、小・中学校、高校生などが多く訪れるようになる。	5	4	3	2	1
E. 観光資源の保存と利用を同時におこなっていくので、持続的に地域の魅力を活用できる。	5	4	3	2	1
F. 遠隣や離島地域での観光の仕組みとして有効である。	5	4	3	2	1
G. 地域住民のガイドが活躍できる場なので、ガイドとして利益を得る事ができる。	5	4	3	2	1

10. 最後に、今後の三島村のジオパークによる観光振興についてご意見がありましたら、自由にご記入ください。

あなた自身のことについてご記入をお願いします。

- あなたの年齢
  - ア.10代
  - イ.20代
  - ウ.30代
  - エ.40代
  - オ.50代
  - カ.60代
  - キ.70代
  - ク.80代以上
- あなたの性別 (男・女)
- あなたの職業 (もっともあてはまるもの1つを選んで下さい。)
  - ア.農業
  - イ.畜産業
  - ウ.水産業
  - エ.林業
  - オ.公務員
  - カ.観光業
  - キ.無職
  - ク.その他 (具体的に書きください: )
- 世帯人数
  - ア.1人
  - イ.2人
  - ウ.3~4人
  - エ.5~6人
  - オ.7人以上
- どのくらい三島村に住んでいますか
  - ア.5年以下
  - イ.5~10年未満
  - ウ.10~20年未満
  - エ.20~30年未満
  - オ.30~50年未満
  - カ.50年以上

以上で質問は終了です。ご協力いただき、ありがとうございました。